りんどう

褐斑病

発 生 の 動 向

1　平成 28 年以降、令和元年を除き毎年発生がみられている（図１）。
2　令和３年の巡回調査では、９月中旬の発生圃場率は 7.1%（平年 5.7%）で平年並であった（図１）。
3　時期別では、８月下旬から発生がみられた（図２）。
4　令和３年は重点防除時期の６月下旬～７月下旬に継続的な降雨があり、感染に必要な葉面濡れ時間が確保されたため、一次感染に好適であったと考えられる。
5　令和３年に発生がみられた圃場では、伝染源量は多いと考えられる。

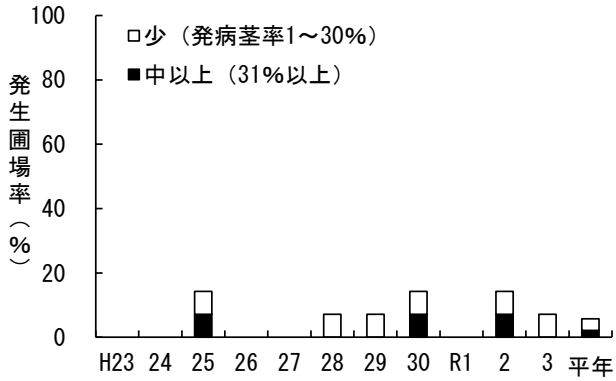

図１　褐斑病の発生圃場率の年次推移（９月中旬）

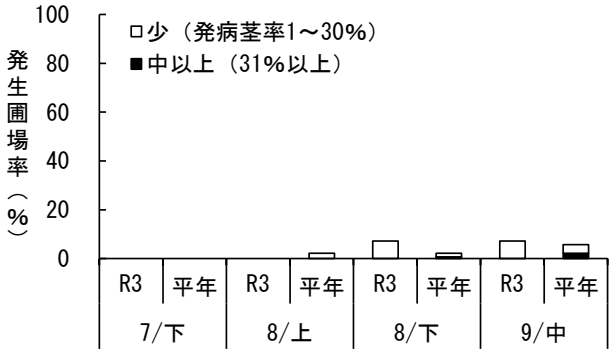

図２　褐斑病の時期別発生圃場率

防 除 対 策

1　６月下旬～７月中下旬にかけて一次感染し、２～３週間の潜伏を経て７月下旬～８月上旬頃に初発がみられる。特に、前年の発生園では本年も発生するため、６月下旬～７月下旬に効果の高い薬剤で、計画的に防除を実施する。
2　定植初年目の発生を防ぐため、定植直後から防除を徹底する。
3　薬剤が到達しにくい下位葉や畝の内部、畝の北側等の日当たりの悪い場所で発生が多く見られるため（図３）、薬液が株全体に十分かかるように散布する。
4　株仕立てが不十分であったり、風通しの悪い圃場では発生が多くなるため、適正な茎数に管理する。
5　被害の拡大防止と伝染源除去のため、被害茎葉は取り除いて圃場外へ運び出し、土中に埋める等して処分する。
6　秋にも発生がみられるため、採花後も圃場内を見回って発生の有無を確認し、被害茎葉は適切に処分する。

図３　多発事例（８月上旬）※畝の内部での発生が多い